


虚 鐸

虚鐸とは、虚鐸伝記という古書に依ると、中国の唐時代の奇僧普化禅師が托鉢の際に使用した鐸（↑木）の音を模して張伯という門人が竹の縦笛を作り、師が鐸を振った際の音、『ボーン』に続いて笛を『ブー』と吹いて師の後を追って歩いたことから、其の縦笛、即ち一音しか出せない指孔の無い縦笛、の事を虚鐸と呼称したのである。しかし、いつの頃か其の笛も断え、其の名称も消えてしまった。

現在、虚鐸と呼ばれている竹の縦笛は西村虚空創作の竹の縦笛の事を言うのである。

これは、かえり見もされない古い製管法を用い、研究を重ねての製管であり、秘伝とも言えるものであろう。

心を落ちつかせるには、うわづった高音より、低音こそ……と虚鐸も三尺二寸（九十七センチ）まで長いものになってしまった。長ければ長い程、低音になっていくのである。

私の作った竹の縦笛の事を虚鐸と呼称する事になったのは、一九五四年、在東京の『文化人（棟方 志功・三角 寛・小山 勝清・小山 寛二・赤坂 小梅 等など）の集い』という会に招かれ、有楽町の日

本クラブでの『西村 虚空の竹を聞く夕べ』で『阿字観』という曲を吹いた時の事である。尺八とは全く似ても似つかぬし、長さも長く、音も違う、なにか竹の縦笛本来のものというような名称をつけると言われ、普化禅師の事などを話したところ、其の虚鐸こそふさわしいということになり、私の作った竹の縦笛の事を虚鐸と呼ぶことになったのである。

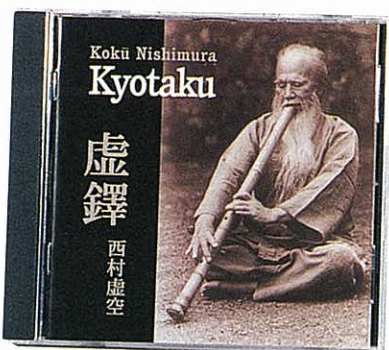
虚鐸の特徴とでもいうようなものは、竹の音、即ち自然の音とを念じての製管法なので、コンピュータをもってしても、製管は不可能のようである。

それ程、各虚鐸はそれぞれの竹材に応じ、その竹をフルに生かした製管である。

虚鐸は、今や国内に数カ所の道場があり、それぞれの道場主が後進の指導に当たって居り、外国にも熱心な門人、ファンを持ち、デンマークで製作された『虚鐸』のC・Dが全世界販売という……虚鐸の音が世界のあちこちに響き渡るであろう事を思うと、感無量のものがある。虚鐸は真の古典本曲吹禅のためのもので、長管の荘厳な竹韻に法悦を感じ、且つ又これを後世に伝承する大行の中に観喜したいと念願する者に依って精進を続けられている。



文部科学省主催 第二十回芸術祭
参加東芝 LPレコード



C D
デンマーク
製作
英語解説



C D
「虚鐸」



C D シングル版
「薩 慈」
八十歳記念